



つながりと地域愛でつくる

ふだんのくらしのしあわせ

第3次東近江市地域福祉活動計画 ダイジェスト版

計画期間：令和4（2022）年～令和8（2026）年



© 久田工芸
® J.kawamura



「共に見守り支え合い豊かに暮らせるまち」を目指し、民間の福祉活動団体や活動者、住民の皆さんと共にこれから5年間（令和4年～令和8年）何を目標に、どんなことに力を入れて取り組んでいくのかを示す、「第3次東近江市地域福祉活動計画」をまとめたものです。

「地域福祉」って何？

福祉(ふくし)には、「幸せ、幸福」という意味があります。「ふくし=困っている人」というイメージがあるかもしれませんが、子どもからお年寄りまで、みんなの「⑤だんの ④らしの ③あわせ」を考え、行動することが福祉です。

「地域福祉」は、東近江市に住んでいるみんなが安心して暮らせる「ふくしのまちづくり」のことで、みんながお互いに助けたり助けられたりする関係づくりや、その仕組みをつくっていくことです。

「地域福祉活動計画」とは

地域福祉をどのように進めるかを示した行動計画で、東近江市社会福祉協議会が呼びかけ作成しました。

「地域福祉活動計画」は、地区住民福祉活動計画、地域福祉推進計画、基盤強化計画の3つの計画で構成しています。

*社会福祉協議会は、住民のみなさんと一緒に地域福祉を進める民間の非営利団体です。「社協」と略して呼ばれることもあります。

地区住民福祉活動計画

住民がすすめる福祉のまちづくりの目標であり、活動をすすめるための計画。市内14地区ごとに、福祉活動やまちづくりに携わる住民のみなさんと話し合いを重ねてつくりました。懇談会やアンケート調査などでお聞きした地域のみなさんの声や思いをカタチにしています。地区住民福祉活動計画をもとに「地域らしさ」を活かした特色ある福祉のまちづくりをすすめます。

地域福祉推進計画

東近江市社会福祉協議会が住民や様々な団体、関係機関とともに市域で地域福祉活動を推進するための計画です。福祉・医療・教育・商工・農業など広くまちづくりに携わる方々と話し合い策定しました。各地区で聞いた住民の声や思いをもとに、市域で必要な取り組みを7つの目標で表しています。住民や団体、事業所、企業、関係機関などまちづくりをすすめる様々な人や団体がつながり、協働ですすめます。

*本ダイジェスト版では、地域福祉推進計画を紹介します。

基盤強化計画

地域福祉を進めるために、東近江市社会福祉協議会の組織や体制のあり方を示し、基盤強化を図るための計画です。

*行政がつくる「地域福祉計画」と民間がつくる「地域福祉活動計画」は、共通の理念「共に見守り支え合い豊かに暮らせるまち」に向かって、連携・協働していきます。

*持続可能な開発目標『SDGs』の17の開発目標と関連づけ、施策の展開を図ります。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



目標

ふだんのくらしの場で一人ひとりが 誰かとつながれる機会や場づくり

コミュニティの基盤を強化していくために、「多様なつながり」づくりをすすめ、住民同士が「顔見知りの関係」を築き、多くの人が地域のことに関心を持ち、地域の活動に参加する人を増やし、地域を活性化します。また、暮らしに身近なエリアで、「居心地が良い」と思える「安心」して過ごせる場をつくり、誰もが、どこかで、誰かとつながり、孤立している人がいない地域を目指します。

キーワード

脱・孤立
仲間づくり
居場所づくり



具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 孤立しがちな人が安心して参加できる居場所づくり<重点>
- 脱・孤立 社会参加で健康づくり(介護予防活動育成支援事業)<重点>
- 子どもの学習・生活支援の実施
- 障がい児サマーホリデー事業の実施
- シニア世代の仲間づくり
- 中学生・高校生・大学生が地域に関われる機会づくり
- 集いの場・居場所づくりの活動支援

住民の私たちだからできること

- あいさつや声掛けをする
- 人とつながれる場を「地域のお宝」として大切にする
- 声をかけ合って地域活動や集いの場に参加する
- 誰もが参加できる工夫をみんなで考える
- 様々な人が参加できる場や機会をつくる・広げる
- 自治会活動や地域行事の楽しさや大切さを伝える

活動エピソード



近所でみんなと健康づくり

蒲生地区の大塚町では、毎月1回、大塚町公民館で介護予防に
取り組む集まりをされています。大塚町の誰もが参加できます。
みんなが定期的に顔を合わせ、わいわいがやがや話し、頭を使っ
たり、体を動かすことで、大塚町の仲間がいつまでも健康でい
きいきと暮らせるように取り組みを続けておられます。



目標
2

困っている人をほっとかない 支え合う地域づくり

困った時に、気兼ねなく「助けて」と言える地域づくりをすすめます。そして、誰もが「助けて」と言える「ヘルプミー運動」と名付けてすすめていきます。また、困っている人に気づいた人が、相談や支縁*につなげることができる仕組みをつくります。

支える側、支えられる側ではなく、一人ひとりや団体・グループが、それぞれの立場でできることをすすめ、支え合う地域を目指します。

*「支縁(しえん)」とは、「支」える活動によって、つくられる「縁」のことです。

キーワード | ちょっと助けて! |

**ニーズ把握・発見
ほっとかない人材育成
役割と出番**

具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 住民にとって身近な相談窓口の設置<重点>
- 誰にも役割と出番がある機会や場づくり<重点>
- 見守り活動の推進<重点>
- ほっとかないための住民リーダーの育成<重点>
- 地域の福祉活動をすすめる人たちとの連携
- ボランティア活動支援
- 災害時に支え合えるしくみづくり
- 役割と出番がある社会参加の場づくりS&S(スマイル・アクト・スタンド)の実施
- 「食」の支援 FoodDay (フードデイ) 25 の実施
- 地域の暮らしを支える専門的支援

住民の私たちだからできること

- そっと見守り、困りごとに寄り添う
- 「助けて!」を発信する、発信できる関係性を地域で築く
- 相談を受けたら社協や相談機関などにつなげる
- 自分の「できる」や「得意」、「好き」を活かし、お互いに支え合う
- 見守り活動の推進
- 学習会や防災訓練等に参加

活動エピソード



自治会ぐるみで見守り「五個荘山本町福祉委員会」

五個荘山本町福祉委員会は、自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員で2ヶ月に1回福祉委員会を開催されています。福祉委員会では、各福祉委員の日頃の見守りでの情報共有をされ、地域課題や暮らしの困りごとを話し合われています。身近な地域でお互いに見守り合う地域の雰囲気づくりと、何かあったときに動ける支え合いのある地域へつながっています。



目標 3

一人ひとりを知り 理解し合うための福祉共育

差別や偏見、孤立をなくすために、地域に暮らす人達がお互いを知り、認め合える機会や場をつくります。また、「福祉」が、困っている誰かのことではなく、自分のことと気づく話し合いや学び合いの場をつくり、「共に生きる力」を育みます。そして、地域の課題を解決するために、主体的に地域活動に参加する人を増やし、地域共生社会の実現を目指します。

東近江市には、外国籍の方も多く暮らしています。国籍や民族などの異なる人々が、お互いの文化や違いを認め合い、東近江市に暮らす地域の一員として、共に生きていくことができる、多文化共生の地域を目指します。

*「福祉共育」には、地域で暮らす全ての人々が共に学び、共に育ち合うことを大切にしていこうという思いが込められています。

キーワード

地域共生社会
多文化理解
共に生きる力



..... 具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 共生社会の実現を目指し、共に学び合う福祉共育を広げる〈重点〉
- 福祉共育を広げるための多機関協働の強化〈重点〉
- 福祉共育情報交換会の開催
- 暮らしの場で自然に多様な住民と知り合い、つながれる機会づくり
- 寄附・寄贈文化の醸成(善意銀行の運営)
- 赤い羽根共同募金運動の展開

住民の私たちだからできること

- 福祉の学習会や懇談会に参加する
- 地域に住む人同士、誰もが自然なつながりができる工夫をする
- 外国籍の方も地域の一員として、つながりがもてる工夫をする
- みんなが安心して地域活動に参加できる工夫を考える

..... 活動エピソード



外国籍の方にも伝わる 「やさしいにほんご」

東近江国際交流協会では、「やさしいにほんご」を広める取り組みをされています。「やさしいにほんご」は普通の日本語より簡単で、外国人にわかりやすいように伝える言葉のことをいいます。東近江市に住む外国籍住民の約9割は英語が母語や公用語ではない人です。簡単な日本語なら理解できる人が多いので、多言語で翻訳するよりも「やさしいにほんご」の方が早い時間でたくさんの人に伝えることができます。「やさしいにほんご」は誰に、何を、どうやって伝えるか相手を思いやる気持ちが大切です。外国人だけでなく、子どもや高齢者、障がい者にも理解しやすく、使いやすい言葉です。



目標
4

困りごとの解決に向けた ネットワークの構築

住民による助け合い支え合い活動や、一つの相談機関だけで解決することが難しい複合的な課題、複雑多岐にわたる課題に対して、住民と専門職、分野を超えた専門職同士がつながり、それぞれの強みや役割を明確にし、連携協働できるネットワークを構築します。

キーワード

**住民参加と
住民との協働
アウトリーチ
多機関・異業種連携**



具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 気づきをつなげる・受けとめるしくみの構築<重点>
- 顔なじみのネットワークと福祉分野を超えた民間のネットワークの構築<重点>
- 多業種がそれぞれの強みを活かし、解決に向けて話し合い、新たな活動や仕組みを生み出すプラットフォームの構築(生活支援体制整備事業)

住民の私たちだからできること

- 気づいたことや気になることを話せる場づくり
- 自治会やご近所の助け合いで解決できないことは、市社協や行政、医療・福祉の専門職等とつながり、相談する
- そっと見守り、声かけ
- 困りごとに気づいた人が、相談できるつながりをつくる

活動エピソード



市民・多機関ネットワークで支援

ワンペアレントサポートプロジェクト

一般社団法人がもう夢工房の呼びかけで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活が困窮している一人親家庭や一人で家族の介護をされている家庭への食材支援を目的に、Mitteひがしおうみフードバンク、市社協とが協働し、プロジェクトを立ち上げ、令和2年度、令和3年度に取り組みました。また、東近江市まちづくり協議会連絡会も共催し、食材の受け渡し拠点として各地区のコミュニティセンターに協力いただきました。食材の仕分けは、ボランティアや一人親家庭の方の参加で行いました。一人でも多くの方へ届るため、行政や民生委員・児童委員とも連携し、市民、多機関のネットワークですすすめました。



目標
5

命と暮らしを支える 社協の相談支援体制の強化

制度の狭間の問題や複合多問題を抱える人に対し、包括的に支えていくために社協の様々な専門職、すべての職員の総合力を活かし、総合的に取り組んでいけるよう、社協内の総合相談支援の体制を強化する必要があります。そのため、相談を受け止める体制を整備し、課題解決に向けた協議の場をつくります。さらに、課題解決には、地域や専門職、行政との連携・協働が不可欠です。

困りごとを抱える方を重層的に支えるためにも、行政や多機関との連携を促進します。

キーワード

相談支援
伴走支援
権利擁護



..... **具体的な取り組み**

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 職員の専門性を活かした総合相談事業の実施〈重点〉
- 出張ふくしの相談会(仮称)とフードパントリーの開催〈重点〉
- 相談支援機関とのつながり強化と社協の相談力UP〈重点〉
- 法律相談の実施
- 特定相談支援事業、障害児相談支援事業の実施
- 地域福祉権利擁護事業の実施
- 成年後見制度の利用促進
- 家計改善支援事業の実施
- 生活福祉資金、小口貸付事業の実施

..... **活動エピソード**

家計改善支援事業から生きがいと地域のつながりづくり

家計改善支援事業を利用されている方が、どこへ行くところもなく、出会う知り合いもなく、家に閉じこもっているだけの状況が続いており、本人の健康状態も心配な状況が続いていました。

そこで、家計改善の支援だけでなく、運動や人と出会う機会をつくっていくために、担当民生委員・児童委員と協力して、グラウンドゴルフや体操などの地域の集いの場を紹介しました。

グラウンドゴルフに参加されるようになると、ほぼ毎日練習に行かれるようになり、大会では好成績を残されるほどの腕前になり、本人の生きがいにもなってきました。

今では、グラウンドゴルフを通じてできた仲間と花見をしたり、車が故障した時に助けってもらったりという社会的な関係が生まれています。





目標 6 福祉のまちづくりをひろげる 情報発信

現在、行われている地域福祉活動の魅力や楽しさを多くの人に知ってもらえるよう情報発信し、関心を持ってもらうことで、地域活動に参加する人を増やします。

困ったときに、相談窓口や福祉の情報が誰にでも届くよう、情報発信をします。

キーワード
福祉のまちづくり
情報発信
広報・啓発



具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- ふくしや地域活動の情報発信について検討する場の開催<重点>
- ふくしや地域活動の情報を共有する場や機会をつくる<重点>
- ふくしの情報が集まるSNS上のプラットフォームをつくる<重点>
- ふくしを身近に感じるための様々な広報媒体による社協のPR
- 広報「ひがしおうみし社協だより」の発行とホームページの運用
- 情報を得ることが困難な方への情報発信
- 在宅福祉サービスの情報発信

住民の私たちだからできること

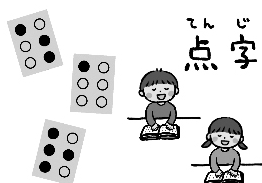
- 自分のまちの地域活動の情報や良さ・楽しさを発信する
- 口コミで福祉情報を広げる
- 情報を手に入れるのが困難な方へ情報を届ける

活動エピソード

ボランティアによる 声のたより・点訳広報

東近江市内では、複数のボランティアグループが視覚障がい者へ情報を届けるために活動されています。“声”で届ける音訳ボランティアは、毎月発行される市の広報誌や年4回発行している社協だよりを朗読し、カセットテープやCDに吹き込んで届けます。

“点字”で届ける点訳ボランティアは、広報誌を指で触ってわかる文字“点字”に書き換えて届けます。視覚に障がいがある方にとって、音・声や手で触れることが大きな情報源です。





目標
7

福祉のまちづくりを 推進するためのサポート

市社協では、地域に出向き、地域の課題や、資源、住民の思いやニーズを把握するなど、地域の特性を分析し、地区にあった支援を行うことで、東近江市の福祉のまちづくりをすすめます。また、地域の福祉を支える様々な住民、幅広い機関、団体、企業などと連携し、地域づくりをすすめます。

また、地域の福祉活動が、持続可能な活動となるよう、有効的に活用できる助成金等の検討をすすめます。

キーワード

地域プロフィール
地域福祉推進会議
地区社会福祉協議会



..... 具体的な取り組み

市社協が様々な人や団体等とすすめること

- 地区社会福祉協議会との連携強化<重点>
- 地域プロフィールづくりと地域支援
- 東近江市民生委員児童委員協議会と各地区民生委員児童委員協議会との連携
- まちづくり協議会との連携
- 赤い羽根共同募金、善意銀行、社協会費を財源にした地域福祉活動への助成
- 社会福祉法人の地域貢献への支援
- 地域福祉推進会議(仮称)の開催

..... 活動エピソード



協働で福祉のまちづくりをすすめる

地区社協パワーアッププロジェクト

令和元年度から令和2年度にかけて、市内14地区社協の皆さんと市社協で「地区社協パワーアッププロジェクト」を開催しました。全4回のパワーアッププロジェクトと2回の14地区社協交流会では、東近江市で目指しているふくしのまちづくりにおいて必要となる地区社協の役割や機能、あり方を検討しました。

そして、プロジェクトで見出した地区社協の役割、機能を「地区社協のてびき」としてまとめました。各地区社協では、市社協地区担当職員も一緒に考えながら、「地区社協てびき」をもとに、各地区にあった地区社協の基盤整備や組織づくり、運営の検討に取り組まれています。

第3次東近江市地域福祉活動計画 ダイジェスト版 (令和4年6月発行)

社会福祉法人東近江市社会福祉協議会
〒527-0016 滋賀県東近江市今崎町21番地1
電話:0748-20-0555 FAX:0748-20-0535
メールアドレス:eomishakyo-honsyo@e-omi.ne.jp

*第3次東近江市地域福祉活動計画の詳細は、本冊子をご覧ください。
右記の2次元コードからご覧いただけます。

